

上野の 寄り道 散歩道

第7回

「寛永寺」

東京藝術大学がある上野は、歴史や伝統と新しい文化が交差するスポットとして、観光に訪れる人も多い。藝大のすぐ近くにも、由緒ある社寺や老舗、意外なエピソードを秘めた穴場が目白押しだ。大学から少しだけ足を延ばして、小さな旅に出てみよう。



1 寛永寺 根本中堂

御本尊は、伝教大師最澄上人の自刻とされる薬師瑠璃光如来像(重要文化財)を秘仏本尊として祀る。台東区上野桜木一―十四―十一



2 常憲院殿勅額門

「常憲院」は徳川第五代将軍綱吉の法名で、この門は霊廟の門にあたる。宝永六(一七〇九)年の造営。重要文化財。

3 開山堂(両大師)

開山である慈眼大師天海と天海が尊崇していた慈恵大師良源(りょうげん)を祀る。初建は正保元(一六四四)年だが、現在のお堂は平成五(一九九三)年の再建。台東区上野公園十四―五



寛永寺は、寛永二(一六二五)年慈眼大師天海大僧正によって創建された。徳川家康、秀忠、家光公の三代にわたる將軍の帰依を受けた天海は、徳川幕府の安泰と万民の平安を祈願するため、江戸城の鬼門(東北)にあたる上野の台地に寛永寺を建立。これは、伝教大師最澄が開いた比叡山延暦寺が、京都御所の鬼門に位置し、朝廷の安穩を祈り平安京を守護する道場であったことになつたものである。そこで山号も東の比叡山、東叡山とされた。最盛期には現在のの上野公園を中心に約三十万五千坪に及んだ。現在のの上野公園噴水広場にあたる竹の台には、壮大な根本中堂が建立され、清水観音堂、不忍池辨天堂、五重塔、開山堂、大仏殿などの伽藍が競い立った。ところが幕末の戊辰戦争では、境内地に彰義隊がたてこもって戦場となり、伽藍の大部分を焼失。さらに明治政府によって境内地は没収されるなど、壊滅的な打撃を受ける。しかし明治十二(一八七九)年、現在地に川越喜多院より本地堂を移築して、根本中堂として再建。その後、関東大震災、太平洋戦争の空襲などで被災したものの、貴重な堂塔、宝物を今に伝えている。現在の境内地は約三万坪、



4 清水観音堂

京都東山の清水寺を模した舞台造りのお堂で、寛永八（一六三）年の建立。本尊も清水寺より恵心僧都作の千手観音像を迎えて秘仏として祀っている。重要文化財。台東区上野公園一―二十九



7 時鐘堂

松尾芭蕉の「花の雲 鐘は上野か浅草か」の、上野の鐘にあたる。正午と朝夕六時の計三回、毎日時を告げる。



5 不忍池辨天堂

天海が琵琶湖竹生島になぞらえて、寛永年間に不忍池に中之島を築き、その地に建立。現在のお堂は昭和三十三年（一九五八）年に再建。台東区上野公園二―一



6 五重塔

寛永十六（一六三九）年の再建。高さは地上から先端の宝珠まで三十六メートルで、第一層には釈迦・薬師・阿弥陀・弥勒の四方四仏を祀る。重要文化財。上野動物園内

8 上野大仏

創建以来たびたび罹災しその都度復興してきたが、関東大震災で首が落ち、第二次大戦の供出令により胴体を徴用され顔だけが残された。現在は「これ以上落ちない」という験担ぎから合格祈願者で賑わいをみせる。



9 天海僧正毛髪塔

寛永二十（一六四三）年に百八歳で没した天海の墓所は、日光山輪王寺に造られ、寛永寺には供養塔を建立。その後、伝来していた毛髪を納めた宝塔も建てられた。



根本中堂のある本寺をはじめとする諸堂が上野の杜に広がり、往時の雰囲気をしる。寛永寺全山の中心である「根本中堂」(1)は音楽学部附属音楽高等学校の北東に位置する。霊園と東京国立博物館のあいだの道を歩いていくと、左手に「勅額門」(2)が現われ、さらにしばらく進むと子院が立ち並ぶ。「開山堂」(3)は東京国立博物館の正面向かって右側にあり、隣接する輪王殿の門は、旧本坊の「表門」にあたる(重要文化財・24頁右下写真)。不忍池を見下ろす「清水観音堂」(4)、蓮池のなかに建つ「辨天堂」(5)も、寛永寺の重要な伽藍のひとつ。「五重塔」(6)は現在、上野動物園の園内にある。

上野精養軒のすぐ近くにある「時鐘堂」(7)や、合格祈願の参拝者も多い「上野大仏」(8)はよく知られているが、寛永寺を創建した天海僧正の「毛髪塔」(9)のあたりはいつもひっそりとしている。